

①ふれあい活動と保全をどうつなぐか について

多くのかたが、間近に観察ができるという利点を活かして、動物の欲求や要求について知ることが、動物を守ろうという気持ちにつながることを指摘していた。

また、飼育情報や個体情報を用いることで、守りたい気持ちがより強くなることを指摘していた。さらに、ふれあい活動を既成概念でとどめることなく、エンリッチメントに取り組むことまで含めたことで、動物のために何ができるかを考え実践する基礎になるのではないかとの提案もあった。

②ペット飼育で得られることと動物園訪問で得られることの関連について

ほとんどの人が、第一に、飼育している動物のことをよく知り生活をよりよくしてあげようという気持ちが、動物園で動物を観るときにも役立つとしていた。また、逆に、動物園で動物たちがよりよい飼育環境や世話をされている場面を見ることにより、自分のペットへの愛情のかけ方も変わってくるであろうと指摘していた人もいた。

③保全につながる教育活動のアイデア（動物園と学校とで）について

・動物園での教育活動としては、圧倒的に「キーパーガイド」など園の飼育担当者が野生動物のおかれている状況を紹介するようなプログラムがあげられていた。

・学校での教区活動は、年齢や学年別にきめこまかく書いていた人もいたが、だいたいはよく動物園を学校で利用する小学生をイメージし、事前学習・事後学習のプログラムをあげていた。教員が保全情報をよく調べて提供することも推奨されていた。

④行動観察を教育活動としてどう活かすかについて

事例に挙げた実際の動物園での行動観察記録を媒介にして、考えてもらったためか、かなり共通して「自ら行動観察に加わる」「行動観察の練習をあらかじめする」というステージを想定し、多くが、エンリッチメントの工夫と実際の行動との関係、来園者の関心と動物の行動との関係を考えていた。おもしろい提案としては、動画であらかじめサンプリングを練習してから、ガイドしてくれるひとといっしょに行動観察手法のトレーニングをする、という提案があった。また、動物をよく見ることが、動物に限らず、まわりのできごとへの注意のしかたにも影響するため、さまざまな場面にいかせるという指摘もあった。

さらに、年齢にあわせて、行動カテゴリーをマンガのように絵で表し、そのチェックを行うという手法の提案もあった。これはエソグラムチェックという、行動観察の手法のひとつである。全体に、2年生で行った多摩動物園での観察シートとりくみ実習を思い出して書いた学生が多かった。

---

これらの最終レポート課題は、それぞれのこれからの研究に役立つことを願っています。